

## プラスチック成形現場での有益な情報活用に向けて

---

一般社団法人 日本プラスチック機械工業会

事務局 佐藤 敦

## 機械装置メーカーが考える情報化の現状と課題、改善に向けて

### 現状

- ✓ 生産現場や生産設備の稼働率管理、遠隔監視などの要求
- ✓ 製品のトレーサビリティ、カーボンフットプリント対応の要求



機械装置への情報化対応ニーズ増

プラスチック加工機械（特に射出成形機）に対しては、MESなどの上位ITシステムとの接続要求増。

### 課題

案件ごとに各機械装置メーカー独自の仕様拡張や各ユーザへの特殊対応が必要になり、各メーカーの負担増。

- OPC UA規格に期待したが・・・
- ✓ 規格で定義されている送受信情報種類だけでは足りず、実用的なシステムを組めない。
  - ✓ 各メーカーの情報モデルが異なる。

### 改善に向けて

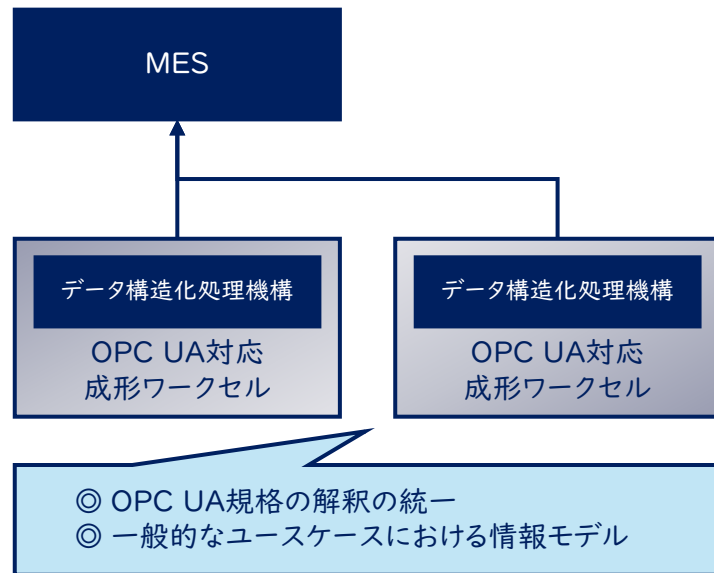
情報化WGを発足予定  
(2024年6月～)

- ① OPC 400\*\* (EUROMAP) 規格に対する業界での統一的な解釈の策定
- ② 「稼働実績管理／生産実績管理」、「製品カーボンフットプリント」といった一般的なユースケースにおいて業界標準となる情報モデルの定義

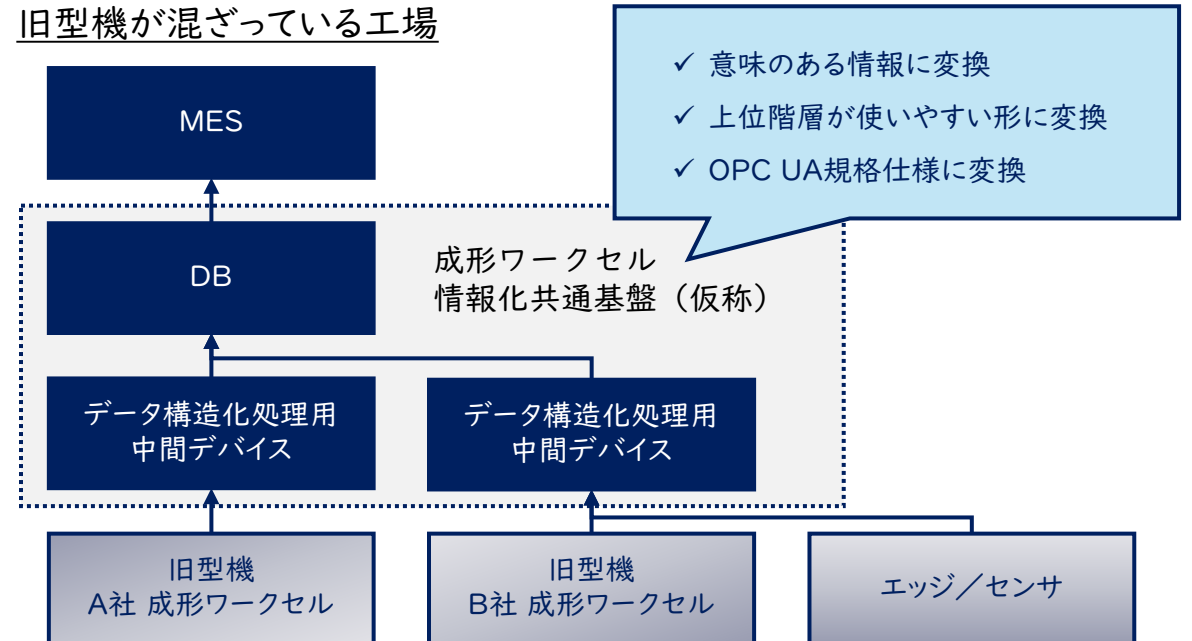
# 旧型機と新型機が混在する成形工場ではまだ不十分

⇒ 収集したデータを意味のある情報に変換し、その情報を上位階層が使いやすい形にして送り出す仕組みが必要。

新型機で構成された工場



旧型機が混ざっている工場



機械装置メーカーの有志が「成形ワークセル情報化共通基盤」を作成し、IAF殿のもとで実証実験 (PoC) を検討中。  
ご興味のある方はお声がけください。